

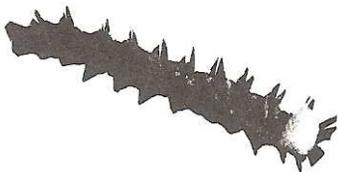
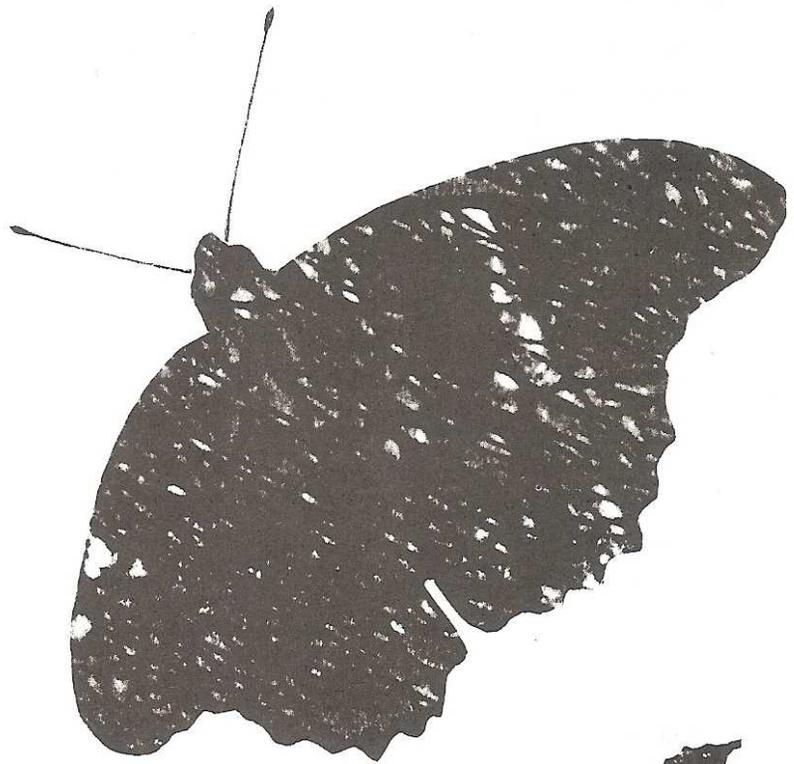
翔

百万石蝶談会

No. 136

February

1999



1998年石川県のツマグロヒョウモン概要

松井 正人

◆はじめに

ツマグロヒョウモンは、これまで年間にせいぜい10頭前後が観察されていたに過ぎない。1994年は本種の当たり年で50頭前後が観察されたが、1998年は手元に有る情報だけでその10倍の500頭以上が観察されている。以下、1998年の概要を報告する。

◆初観察は6月28日

1998年の最初の1頭は、笹川忠志氏によって6月28日に観察された(笹川忠志, 1998)。この記録は早いものではなく、これまでも1993年6月1日(牧原悟郎, 1995)、1991年6月4日(富沢直浩, 1996)、1992年6月13日(宮本信一, 1993)等の記録がある。しかし、これら3カ年は、その後に続く記録が無く、3カ年ともほぼ2ヶ月経たないと次の記録が登場してこない。

◆初観察からほぼ連続して観察

1998年は、6月28日に初観察された後、7月4日(笹川忠志, 1998)、7月5日(矢田新平, 1998)と観察が続いている。観察された時期を旬別に比較したのが次表である。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1991年	◎					◎	◎		◎	◎				◎				
1992年		◎					◎	◎	◎	◎	◎			◎				
1993年	◎						◎		◎		◎							
1994年						◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎				
1998年			◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

表-1. 旬別観察記録

1998年は7月中旬に記録が無いものの、おおむね6月下旬から11月中旬までツマグロヒョウモンが観察されていた。

◆広い範囲で観察

これまでの観察場所は、見晴らしの良い場所がほとんどで、ツマグロヒョウモンは積極



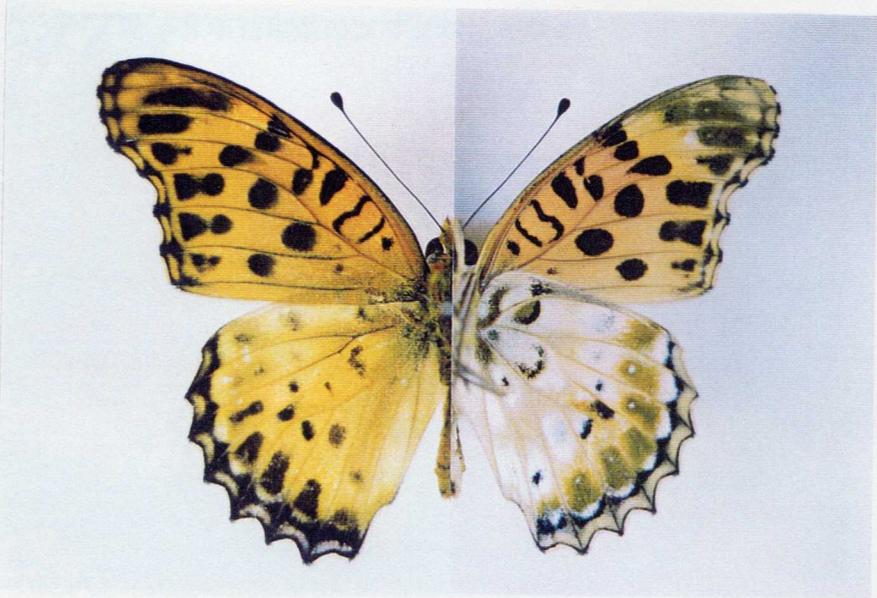
スギ林に囲まれたツマグロヒョウモンの発生地（額谷）



オオタチツボスミレを
摂食中の幼虫（額谷）



イヌタデの蛹（額谷）



表面

裏面

嵯峨井淳郎：ツマグロヒョウモン流紋異常型オスを採集（本文22ページ）



奥 素八子：庭のランタナに飛来したツマグロヒョウモン（本文23ページ）



図-1. 1998年の観察地

的に調査しなければ観察できない蝶であった。1998年も8月までは見晴らしの良い場所で観察されていたが、9月になると見晴らしとは関係の無い場所でも観察され始め、9月下旬頃から更に一般化し、民家の庭先にも飛来するようになった。

(奥素八子, 1998)

(久慈一英, 1998)

◆観察頭数の増化

ここでの頭数は、1回当たりの観察頭数で、9月中旬になると1度に10頭以上が観察されるようになった。これまでは、1年間に10頭前後が観察されていたのだから、1回で1年分が観察できてしまうことになった。9月下旬になると1回に30頭以上が観察され始め、10月に入って小松市大倉岳スキー場では1日に48頭が観察され(矢田新平, 1998)、その7日後には同地で2時間に40頭が観察されている(松井正人, 1998)。

◆卵・幼虫・蛹の発見

石川県では観察されていなかった卵、幼虫、蛹が、今回初めて観察された。多数の成虫と共に羽化後間もない成虫が観察された金沢市額谷から、蛹や幼虫が観察された(嵯峨井淳郎, 1998a)のを皮切りに、加賀市塩屋海岸、小松市大倉岳スキー場から卵や幼虫が発見された(松井正人, 1998)。

◆異常型の採集

加賀市塩屋海岸で異常型が採集された(嵯峨井淳郎, 1998b)。異常型が発生する確率は、千頭に1頭、あるいは1万頭に1頭で有ろうか。ツマグロヒョウモンは、1年に10頭前後しか観察されない珍しい蝶であったがために、発見された個体のほとんどはしっかり観察されているので、異常型であればすぐ気付くであろう。1998年には、500頭前後が記録され異常型はこの1頭だった。

◆最終観察は11月15日

これまでの最終観察日は、「表-1. 旬別観察記録」にも有るように、10月中旬の年が多く、最も遅い記録は1991年10月18日だった(松井正人, 1992)。1998年はこれよりほぼ1ヶ月遅い11月15日に輪島市気勝山で観察されている(日吉芳朗・日吉南賀子, 1998)。同時期、金沢市額谷でも観察が続けられていたが、額谷での最終観察は10月24日で、それ以後11月15日まで調査は続けられたが観察されていない(嵯峨井淳郎, 未発表)。

気勝山の観察地は、西斜面にある背丈50cm程のスギの造林地で、雑草がきれいに刈り払われているために地表の日当たりが良いのに比べ、額谷の観察地は、大きなスギ林に囲まれた穴の様な場所で陽が低くなる秋期は特に日当たりが悪い。この影響から気勝山では11月まで観察が続き、額谷では途絶えたのではないだろうか。このように考えてくると、加賀市塩屋海岸でも観察できたことが予想され、調査を続けなかったのが悔やまれる。

◆越冬は可能か

猪又敏男(1990)は、日本海側での越冬可能は福井県敦賀市付近までとしているが、近年の温暖化でツマグロヒョウモンの北上は著しい。近刊の「昆虫と自然, 33(14), 1998」でも、温暖化傾向とツマグロヒョウモンの北上について各氏が述べ、石川県での越冬も十分に考えられる。

越冬態は、大阪府大阪狭山市では非休眠の幼虫(河村 俊, 1998)、大阪府大東市では非休眠の幼虫と蛹(佐々木秀人・高橋邦明, 1992)、京都府宇治市では非休眠の幼虫(長谷川政興, 1993)、愛知県名古屋市では休眠幼虫(阿江 茂, 1998)、岐阜県各務原市では非休眠の幼虫(宮野昭彦, 1995)と、非休眠の幼虫での越冬が多く報告され、冬季でも日差しの強い日には摂食、日光浴、歩行等が観察されている。

1998年に県内で多数のツマグロヒョウモンが観察された場所は、北から輪島市気勝山、金沢市大額、金沢市額谷、金沢市倉ヶ岳、辰口町仏大寺、小松市波佐羅、小松市大倉岳、加賀市塩屋海岸である(図-1. 1998年の観察地の◎印と●印)。この中で幼虫が観察されたのは、額谷、大倉岳、塩屋海岸の3カ所、幼虫が予想されるのは気勝山、大額、仏大寺だと思われ、非休眠の幼虫で越冬するとすれば、スキーゲレンデが発生地の大倉岳は望みが薄く、雪が積もらない塩屋海岸は可能性が高い。

観 察 地	標高m	幼虫観察	幼虫予想	越冬予想	備 考
輪島市気勝山	280		◎		積雪多い
金沢市大額	60		◎	◎	積雪あり
金沢市額谷	60	◎		◎	積雪あり
金沢市倉ヶ岳	500				
辰口町仏大寺	60		◎	◎	積雪あり
小松市波佐羅	60				
小松市大倉岳	300	◎			積雪多い
加賀市塩屋海岸	0	◎		◎	積雪なし

表－２．越冬予想

◆さいごに

1998年はツマグロヒョウモンが大発生し、卵、幼虫、蛹までもが観察された。場所によっては、来シーズンの発生に向けて準備が進められている事だろう。越冬の多くは非休眠の幼虫で、日差しの強い日には、摂食、日光浴、歩行等が観察されると云う。大発生最後の締めくくりとして、今春は越冬幼虫の観察にチャレンジしてみてはいかがだろうか。

《参考文献》

- 阿江 茂 (1998) 名古屋市における温暖化傾向とチョウ相の変化. 昆虫と自然, 33(14):13-14.
猪又敏男 (1990) 原色蝶類検索図鑑. 223pp. 北隆館.
奥素八子 (1998) 庭のランタナに飛来したツマグロヒョウモン. 翔 (136): 23.
河村 俊 (1998) 温暖化と市街化の狭間にて. 昆虫と自然, 33(14):22-23.
久慈一英 (1998) 石川県にツマグロヒョウモンがいっぱい. 翔 (136): 11-12.
嵯峨井淳郎 (1998a) ツマグロヒョウモンの蛹化植物について. 翔 (136): 18.
嵯峨井淳郎 (1998b) ツマグロヒョウモン流紋異常型オスを採集. 翔 (136): 22.
笹川忠志 (1998) 1998年金沢市近郊で一時発生したツマグロヒョウモン顛末記. 翔 (136): 7-9.
佐々木秀人・高橋邦明 (1992) 大東市におけるツマグロヒョウモンの越冬状態の観察記録. Crude(36):5-6.
富沢直浩 (1996) 僕が採ったチョウの記録. 翔 (121): 6-9.
長谷川政興 (1993) 冬にうろつくツマグロヒョウモンの子供. Came虫, 11(5):2-4.
日吉芳朗・日吉南賀子 (1998) 輪島市気勝山のツマグロヒョウモン. 翔 (136): 15-16.
牧原悟郎 (1995) 北陸の蝶 2 題. 翔 (116): 9.
松井正人 (1992) 石川県のタテハチョウ 2. 翔 (96): 5-8.
松井正人 (1998) 石川県各地でツマグロヒョウモンの幼虫を調査. 翔 (136): 19-20.
宮野昭彦 (1995) 岐阜県各務原市でのツマグロヒョウモンの越冬例. だんだらちょう, 13(38):7-11.
宮本信一 (1993) ツマグロヒョウモンの撮影記録. 翔 (100): 37.
矢田新平 (1998) 小松市のツマグロヒョウモンパラダイス. 翔 (136): 13-14.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

1998年金沢近郊で一時発生したツマグロヒョウモン顛末記

笹川忠志

◆はじめに

1998年は、初夏から秋へと長い期間ツマグロヒョウモン (*Argyus hyperbius*) が、石川県のほぼ全域で確認され、特に金沢近郊や加賀市では一時発生も確認されたので今回その一環として「額谷」地区での顛末記録を報告する。

◆初採集とその後

筆者は1998年6月28日に金沢市近郊湯涌温泉上の林道で1メスを採集した。羽は小破していたが綺麗なメスであった。当日は前日からの南風を伴った風雨が収まり曇天であったが少々日も射す様な気候であった。

1998年6月28日 金沢市湯涌温泉 1♀ 笹川忠志

その後、奥医王山の登山道の中腹で1オスを採集した。気象条件は前項と同様であった。当時筆者は、「関西に近いから記録もかなりあるのだろう」と言う程度の認識に過ぎなかった。

1998年7月4日 金沢市奥医王山 1♂ 笹川忠志

その後、盛夏は信州やゼフィルスの探索に明け暮れておりしばらく目撃・採集記録はない。秋口に飛翔個体を再確認した後、松井正人氏からの情報をいただき、過去から良く記録されている倉ヶ岳のピークで、占有行動をしているオス個体をかなり目撃・採集した。倉ヶ岳のピークでの採集が、発生場所の推察に大きなヒントを得た事に関しては後述する。

◆ツマグロヒョウモンの特徴

オスの行動は、土着地域で知られている様に、羽化直後は発生場所に留まり、離散するまで早朝吸水（午前中吸蜜）・飛翔・休息の繰り返しである。小ピークで占有行動をするオス個体は、発生地点からかなり離散した個体であると思われる。

メスの行動は、羽化後も余り遠方へ離散せず留まっている事が多い。但し、周知の通りカバマダラ・スジグロカバマダラのみミクリーである為、大風や上昇気流に乗るとマダラチョウ属の様にかなり長距離を移動するのではないかとと思う。実際、小生は、沖縄（八重山）でスジグロカバマダラと誤認してしまう様な飛翔を目撃している。

1998年は、春先から気温がかなり高く、更に日本海側に前線が停滞し、南風がかなり長期間にわたって日々吹き込んでいたので、関西方面から移動して来たのではないだろうか。

◆一時発生地の推察と確認

倉ヶ岳の飛翔個体に「赤く新鮮」な、明らかに発生した個体を確認したので、その後は飛翔個体のルートを観察し、如何なる行動をするかを観察した。

ツマグロヒョウモンはオープンランドで良く発見されるが、更に、沿岸部に良く飛翔していることがある。倉ヶ岳に飛翔する個体が海（西側）サイドから飛来するのが多かったため、沿岸部沿いに移動し山麓の良い環境に留まり一時発生場所があり、そこから飛翔して来ているのではないかと推察し探索を開始し、倉ヶ岳山麓を目標に候補地を数点絞ってみた。

ここからは、長年の勘と運しかないのであるが、まず、朝早い時間に林道を走り湧き水を探し吸水個体を発見すれば、手掛かりは出来ると考え昨年オオムラサキやウラギンシジミ、アゲハ類やヒカゲ・ジャノメ等々を確認した「額谷：富樫御廟谷」を探索する事にした。蝶愛好家やキャリアの長い者にとって「頭」で考えるより、環境を「肌」感じた時に既に「皮膚感覚」として目的のチョウが居るか否かを判断している様に思う。筆者は、物心付いた時には既に網を持っており、父親の影響もあり38年間もチョウと関わりを持っているので、自分でも不思議な感覚認識なのである。話を元に戻して、筆者の経験からしても驚く程の的中で、最初の候補地「額谷」でしかも最初の探索で数頭の吸水個体を発見する事ができた。筆者は幾つかの個体の中、わざと驚かして飛翔行動を観察したのだが、その個体は放置された「梅林」に待避した。後を追いかけると数頭が飛翔したので、発生地ではないか？と思いメスや幼虫を探索したが、発見できなかった。採集した個体の中には、羽化の際に少々の障害の為に羽が伸び切らなかったものもあった。

その後、もう1ヶ所で同様に集合している個体を発見したので、松井氏に報告した。筆者は、一時発生場所と断定し松井氏他へ探索をお願いし、果たして、松井、嵯峨井淳郎両氏の探索で幼虫・蛹、または羽化個体多数が発見され「額谷＝一時発生場所」が確認されたのである。その後筆者も、かなりのメス個体や更には交尾個体を発見し、幼虫も確認する事ができた。

◆今後の可能性

南方系のチョウの北上がこのところかなり激しい。タテハモドキの九州定着、ナガサキアゲハ、イシガケチョウの北上等々、更にはカバマダラやウスイロコノマチョウの本土迷チョウ記録の拡大など、枚挙にいとまないのだが、今後この傾向は更に加速するのではないかと予感させられる。尚、今般のツマグロヒョウモンは富山県でも同様な発生があり、センセーショナルな出来事として、大きな話題となった。更に長野県では越冬幼虫が確認報告（那須野雅好, 1998）された。幼虫に「寒耐性」が生じたのであろうか？

北陸3県は、有数な豪雪地域と言うイメージが強烈である。38、56豪雪と言う歴史的な記録も現存する。但し、此処10年近くは暖冬傾向、更には初夏にかなり暑い日が記録され

る等々相当イメージが異なってきた。難波通孝（1994）にもある様に、今後かなりの南方系のチョウの記録が増加すると思われるし、越冬・定着も推測可能である為、しばらく観察・記録する意義は高いと考える。とにかく、今冬にツマグロヒョウモンの越冬幼虫が確認される様な事態になれば、論文発表の価値さえ生じてくると思う。

1999年の初見日がいつ頃になるか。また、気象条件の推移によって1998年と同様な内容になるのか、今迄と変わらず移動種としての記録に留まるのか、が最大の関心事である。

◆おわりに

1998年のツマグロヒョウモンの大発生は、かなり早い時期に多くのメス個体が飛来し、良い環境の発生地に巡り合い、世代を繰り返した事によると推察する。但し、1998年が特異な年ではなく、過去にも同様な事を各所で繰り返していた可能性はあると考える。今後は、1998年の記録をベースに継続的な採集・観察確認を繰り返す事だと考える。

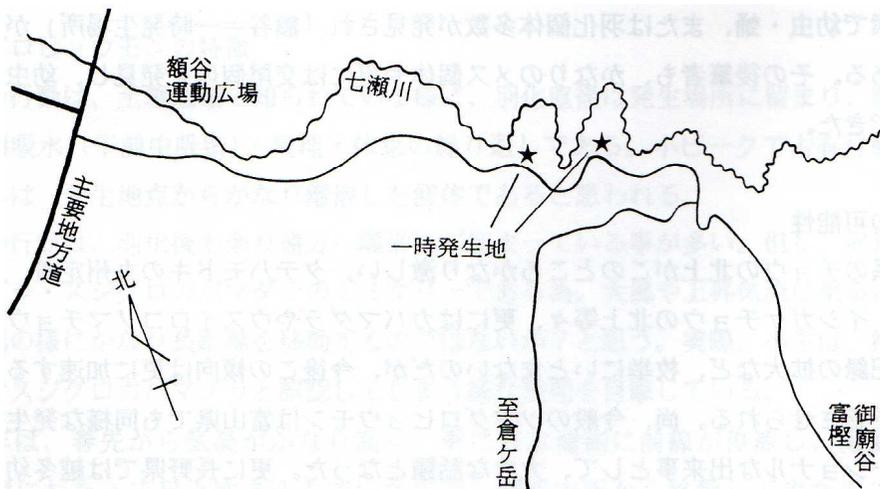
今回の発生場所の特定は「勘と運」と言う表現をしたが、チョウの気持ちになって考える事が出来るかどうか、今後とも最大のキーポイントになると思う。これからも色々と観察を繰り返す中で、新たな発見をしたいものである。

尚、本件に関して種々アドバイスを頂いた松井正人氏を始め「百万石蝶談会」の方々に感謝の意を表し文末の謝辞としたい。

《 参考文献 》

難波通孝（1994）“1994”イシガケチョウの飛翔. 125pp. 丸善（株）.

那須野雅好（1998）学社連携による三郷昆虫クラブの活動について. 日本鱗翅学会
第45回大会講演要旨集：20.



《ささがわ ただし 〒921-8155 金沢市高尾台1-6-4 パトリア202》

倉ヶ岳のツマグロヒョウモン・その後

嵯峨井淳郎・牧原悟郎

金沢市倉ヶ嶽町倉ヶ岳山頂から鶴来町NTT、建設省、海上保安庁の各無線中継所にかけてのツマグロヒョウモンの採集記録は、牧原悟郎(1995, 1997) に詳しい。

本年(1998年)も同地にて多数採集・目撃確認しているのを記録しておきたい。

1998年8月10日	石川県金沢市倉ヶ嶽町倉ヶ岳山頂	2♂採集	牧原悟郎
1998年8月10日	石川県石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所	1♂採集	牧原悟郎
1998年8月14日	石川県石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所	2♂1♀採集	嵯峨井淳郎
1998年8月21日	石川県金沢市倉ヶ嶽町倉ヶ岳山頂	2♂採集	牧原悟郎
1998年8月21日	石川県石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所	4♂採集	牧原悟郎
1998年8月22日	石川県石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所	1♂採集	牧原悟郎
1998年8月22日	石川県石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所	1♂採集	嵯峨井淳郎
1998年9月 3日	石川県金沢市倉ヶ嶽町倉ヶ岳山頂	1♂採集	牧原悟郎
1998年9月20日	石川県金沢市倉ヶ嶽町倉ヶ岳山頂	8♂採集	嵯峨井淳郎

なお、8月14日嵯峨井採集の雌は、松井正人氏に強制採卵を委ね、120卵程得られたが、今夏のこの特別の蒸し暑さ(結局梅雨明け宣言はされずじまい)のために、思うような飼育結果が得られなかった。嵯峨井は概ね、洋種のスマレ(ドイツスマレ:通称)で飼育したが、餌不足のため飼育途中に付近の山で採集したオオタチツボスマレに変えたところ、バタバタと死亡した。そして何らかの原因で脱皮できずに前蛹のまま死亡するもの、等々、管理が不十分な面もあり、最終的には、8頭(3♂5♀)の成虫を得られたにとどまった。

飼育羽化した成虫は、牧原、嵯峨井が保管している。

《 参考文献 》

牧原悟郎(1995)北陸の蝶2題. 翔(116):9.

牧原悟郎(1997)金沢市倉ヶ岳のツマグロヒョウモン. 翔(125):3.

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

《まきはら ごろう 〒924-0836 松任市山島台3-4-4》

石川県にツマグロヒョウモンがいっぱい

久慈一英

松井正人氏から、倉ヶ岳などでツマグロヒョウモンが採れていると電子メールが入った。交雑種も過去に採れているということで、とりあえず医王山へ行ってみた。医王山スポーツセンターのテニスコート前を通りかかると、道端の伐採地に赤茶色の蝶が舞っている。突然のメスとの遭遇であった。急いで車を止め、駆け寄るが焦って空振り。ふわっと舞い上がり、逃げ出した。全力疾走するが取り逃がしてしまい、呆然としているところへ今度はオスが飛んできた。全力で追いかけるがこれまた失敗。残念な1日だった。

1998年8月29日 石川県金沢市医王山スポーツセンター 1♂1♀目撃 久慈一英

その後、医王山や卯辰山では見つけれず、まず確実に採ろうと倉ヶ岳へ向かう事にした。山頂に登るとオスが1頭いて、ようやく捕獲。気を良くしてNTT無線中継所へ向かい、更にオスを得た。周辺ではどこにでもいると思われたので、隣の獅子吼高原に登ると、頂上の草原に予想通り飛んでいた。鶴来町から金沢市西部には、広く高密度に発生していると思われた。

1998年9月5日	石川県金沢市倉ヶ岳山頂	1♂	久慈一英
1998年9月5日	石川県石川郡鶴来町倉ヶ岳NTT無線中継所	1♂	久慈一英
1998年9月5日	石川県石川郡鶴来町獅子吼高原	5♂	久慈一英

こうなると自宅近くでも採集しようと、キゴ山に2度目の挑戦をした。非常に暑い日であったが、山頂の牧場を回るとついに発見。

さらに北部を探索しようと、車で行き易そうな倶利伽羅峠へ行ってみた。他のヒョウモンに混じって、オス1頭が飛んでいた。

1998年9月13日	石川県金沢市キゴ山山頂	2♂	久慈一英
1998年9月13日	石川県河北郡津幡町倶利伽羅峠	1♂	久慈一英

続々とツマグロヒョウモンの情報が流れてきたが、まだメスは珍しかった。そこへ突如、「嵯峨井淳郎氏宅の近所で発生地を発見」の一報が入った。急遽、案内してもらおうと、額谷の梅林のスミレに発生していた。きれいな成虫と蛹を採集。ここのメスは後翅基部の黒化が強い。嵯峨井氏の自宅庭にも飛んできたという。

この日の午後、加賀市方面のウスイロコノマチヨウやツマグロキチヨウの採集記録地を、松井氏に案内していただいた。その車中で、塩屋海岸に珍しいスミレの群落があるという話になった。冗談でツマグロヒョウモンがいるかもしれないということになり、立ち寄ってみることになった。暑い海岸を少し歩くが、スミレはあっても蝶はいない。いるはずもないと帰ろうと思ったとき、先を進んでいた嵯峨井氏の「メス発見」の声が響いた。3人とも色めき立って探すと、次々と成虫がみつきり、大量発生地であることを確認した。しかも、松井氏がスミレから幼虫を発見し、発生地であることもわかった。まさに、狐につままれたような1日であった。

1998年10月3日	石川県金沢市額谷	3 蛹 7 ♂ 6 ♀	久慈一英
1998年10月3日	石川県加賀市塩屋海岸	4 ♂ 3 ♀	久慈一英

翌日、朝起きて何気なく庭を眺めていると、コスモスの花に赤茶色の蝶が止まった。急いで飛び出して捕獲すると、メスであった。とうとう私もツマグロヒョウモンに取り憑かれたらしい。

1998年10月4日	石川県金沢市鈴見台	1 ♀	久慈一英
------------	-----------	-----	------

塩屋海岸以外の海岸にも興味を持たれたが、発生地は無いということである。でも、1頭目撃。

1998年10月11日	石川県羽咋郡押水町北川尻	1 ♂ 目撃	久慈一英
-------------	--------------	--------	------

ところで、今年初夏に雨飾高原でもメスを目撃している。全国的に北進が早かったようだ。

1998年7月4日	長野県北安曇郡小谷村雨飾高原	1 ♀ 目撃	久慈一英
-----------	----------------	--------	------

ということで、1998年のシーズン後半はツマグロヒョウモンだらけになった。タイムリーな情報をいただいた松井正人氏、発生地へ案内していただいた嵯峨井淳郎氏に感謝申し上げます。

《参考文献》

松井正人（1996）再びツマグロヒョウモンの雑種が羽化． 翔（121）：1-5.

嵯峨井淳郎（1998）金沢市倉ヶ岳のツマグロヒョウモン追加記録． 翔（133）：2.

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3丁目1-3》

小松市のツマグロヒョウモンパラダイス

矢田 新平

1998年は僕にとってツマグロヒョウモンの年であった。7月5日、小松市の大倉岳山頂でツマグロヒョウモン雄を取り逃がしたのが、そもそもこのレースの始まりであった。この日は気温26℃と暑かったが、大変天気も良くハイキング日和だったので、家内を誘って大倉岳に出かけた。お目当てのウラミスジジミ、その他のゼフはどれもボロばかり、少々がっかりだったが、それでもホソバセセリの新鮮さに気を良くして山頂に立った。山頂にはオオムラサキやアサギマダラがいて、これらに会えただけでも来た甲斐があった。各種のヒョウモンチョウもちらほらといて目を楽しませてくれた。久しぶりにメスグロヒョウモン雄もいたが、早や欲が出て、雌もいないかなあであった。とその時、さらに目に飛び込んできたのがなんともっとうれいしツマグロヒョウモン！ ツマだけが黒い雄であったが、これ以上の贅沢は言わない、言わないとつぶやきながらネットを伏せた。ところが一度確かにゲットしたはずなのに何の弾みか、気付いた時はツマグロちゃんは空中を舞っていた。これがもし雌だったらきっと気が狂っていたに違いない。もちろんこの時はまだ、この秋に取り尽くせないほどのツマグロの大群が、僕をパラダイスにいざなってくれるであろう事など想像だにしていなかった。そして2ヵ月が過ぎた。

9月6日、またも二人して大倉岳へ登った。別に期待はしていなかったが、頭の隅にツマグロヒョウモンへの思いはあることはあった。しかし、ツマグロのツの字にも会えず、結局駐車場まで戻った。ところが戻ってびっくり、そこに恋焦がれたツマグロちゃんが2頭も、僕の戻りを今や遅しと待っていた(?)。今回は前回のようなへまはしなかった。そして帰り道、岩上でも雄1をゲットした。とても新鮮だった。

9月20日、この日は気温29℃で秋晴れ、絶好の採集日和であった。初めからツマグロを狙い、能美郡辰口町仏大寺に向かった。富沢 章氏の紹介で僕は以前にもここでツマグロヒョウモンを採集していたからである。そして着くなりツマグロに迎えられた。あれよ、あれよという間に雄9、雌1採集、この他雄5以上目撃という成果だった。ここで気付いたことは、

- ◆ いずれも完品
- ◆ とにかく雄ばかり、雌は十分の一以下
- ◆ 雄にはかなりの飛翔力があり、一度取り逃がすと再捕獲は難しいのに対し、雌は緩やかな飛翔でしかもすぐ止まるので大変採集し易い
- ◆ 他のヒョウモン類は観察されない
- ◆ 訪花せず、下草のある疎林や畑に多い(そこにスマイレでもあったのか)

この日、他のポイント(小松市岩上、二ツ屋、波佐羅、尾小屋)でも多く目撃し、7頭採集した(この時も雄ばかり)。ここ4カ所ではオレンジ色のコスモス(キバナコスモス)

に訪花していた。

10月4日、あんなにたくさん採集したツマグロなのにまだ気になって、またもツマグロヒョウモンを求めてポイントに向かった。23℃薄曇りないし晴であった。各ポイントにはいることはいたが、1ないし2頭だった。もう峠を越えたかと思いながら、大倉岳スキー場の下のゲレンデに行ってみた。9月下旬の大雨で途中の道路がえぐられて、今年は当地で例年行われるコスモス祭りは中止となっていた。しかし、何とか駐車場までたどり着き、いざコスモス畑に足を踏み入れるなり、数頭のツマグロが飛び上がった。どれから採集していいか迷うほどだった。散々走り回った挙句、しまいには雄は完全無視、雌だけ採集することと相成った。とても大きなしかも完品の雌もゲットした。結局短時間のうちに雄17、雌12採集、この他雄15以上、雌4目撃という成果であった。当地を去る時、標本にする個体以外は全て放蝶した。当時はただ必死であったが、今思うと何か夢を見ているような錯覚に陥りそうな体験だった。

雌から採卵を試みたところ、数え切れないほどの卵を得ることができた。ところで北陸では野外に産み付けられた卵全てがこの冬、気温の低下に伴って全滅するのであろうか。これが自然の摂理か。しかしながら温暖化になれば、これら全ての卵は命を継承していけるのではないか。すでに彼らは地球の温暖化を見越して、将来に向けてのシュミレーションを開始しているのか。こんな思いに駆られながらも、気持ちはすでに来シーズンへ。つまり、次回はウスイロコノマでよろしく！と。

《ツマグロヒョウモン観察記録》

1998年7月5日	石川県小松市大倉岳山	1♂目撃	矢田新平
1998年9月6日	石川県小松市大倉岳駐車場	2♂採集	矢田新平
1998年9月6日	石川県小松市岩上	1♂採集	矢田新平
1998年9月20日	石川県能美郡辰口町仏大寺	9♂1♀採集5♂目撃	矢田新平
1998年9月20日	石川県小松市岩上	2♂目撃	矢田新平
1998年9月20日	石川県小松市二ツ屋	1♂採集2♂目撃	矢田新平
1998年9月20日	石川県小松市波佐羅	4♂採集4♂目撃	矢田新平
1998年9月20日	石川県小松市尾小屋	2♂採集2♂目撃	矢田新平
1998年10月4日	石川県小松市波佐羅	1♂採集1♀目撃	矢田新平
1998年10月4日	石川県小松市大倉岳スキー場	17♂12♀採集15♂4♀目撃	矢田新平
1998年10月4日	石川県能美郡辰口町仏大寺	1♂採集	矢田新平
1998年10月10日	石川県小松市草野	1♂採集	矢田新平

《やた しんぺい 〒923-0802 小松市上小松町丙192-8》

輪島市気勝山のツマグロヒョウモン

日吉芳朗・日吉南賀子

気勝山（けかちやま、343m）は旧輪島町の南南西約2.5kmの地に位置し、高洲山（567 m）とともに古くから住民に親しまれてきた山である。その登山口は気勝平町と別所谷町大久保より入り林道北谷線の途中からの2ヶ所があり、前者は林道気勝山線の始点、後者は終点とされている。筆者らは道路事情のため後者を利用しているが、その終点から0.80kmの西側斜面で、1998年の秋に多数のツマグロヒョウモンを目撃・採集することができた。その地点はおよそ1ヘクタールのゆるやかな起伏のある傾斜地で、伐採されてスギの苗木が植林されているが、まだ背丈は低く、その中に背丈の高いマツが点在しているものの、午後になると日当たりのよい場所となる。しかもタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、ツボスミレ、カガノアザミなどが群生しており、本年は11月22日にもなおカガノアザミは花を咲かせていた。

10月11日、14時30分頃、快晴で穏やかな日和りであったが、同地点でツマグロヒョウモン♂2頭を目撃するとともに、うち1頭を日吉芳朗が採集した。しかしこの2頭以外に見ることはなかった。11月3日、13時～14時。この日は曇りでときどき日がさすような天候であったが、もはや蝶採集の時期でもあるまいと思いつつ、先日のツマグロヒョウモンが気になり、あえて同地点に向かった。ところが予期に反して多数のツマグロヒョウモンの♂、♀が乱れ飛んでいたのには驚愕した。♂5頭、♀7頭を確認するとともに、そのうち♂1頭、♀3頭を日吉芳朗が、♂2頭、♀2頭を日吉南賀子が採集した。これらはほとんどが新鮮な個体であった。その後、11月8日、14時頃、♂2頭、♀4頭を目撃し、うち♀1頭を、14日、16時頃、♂1頭をそれぞれ日吉南賀子が採集した。また15日、14時頃、♂1頭と♀1頭を目撃したが、この日はときおり薄日はさすものの風が強くこれ以上の確認はできなかった。その後も強風の日は続き、18日～21日かけての寒波の襲来で終息したものの、22日と26日の両日に同地を訪れたが、1頭も目撃できなかった。

1998年10月11日	石川県輪島市気勝山	1♂採集1♂目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
1998年11月3日	石川県輪島市気勝山	3♂5♀採集2♂2♀目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
1998年11月8日	石川県輪島市気勝山	1♀採集2♂3♀目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
1998年11月14日	石川県輪島市気勝山	1♂採集	日吉芳朗・日吉南賀子
1998年11月15日	石川県輪島市気勝山	1♂1♀目撃	日吉芳朗・日吉芳弥

石川むしの会・百万石蝶談会（1998）にあるツマグロヒョウモンの記録をみると、これまで10月18日が最も遅く、本年は天候異変とはいえ、それより約1ヵ月も遅れている。

以上の記述から、個体のほとんどが新鮮であり、かつ多数みられたことよりこの地で発生した可能性が高いように思われる。しかし卵、幼虫、蛹はみつかっていない。

なお、輪島市におけるツマグロヒョウモンのその他の記録であるが、1993年10月9日、高洲山頂上付近で♀1頭を日吉芳朗が目撃し（未発表）、翌年の1994年8月31日、同頂上で松井正人氏が♂4頭を採集されている（百万石蝶談会編集部, 1994）。また1998年8月22日、宝立山頂上付近で♂1頭を日吉芳朗が採集した。

◆輪島市におけるツマグロヒョウモンのその他の記録

1993年10月9日	石川県輪島市高洲山頂上付近	1♀目撃	日吉芳朗
1994年8月31日	石川県輪島市高洲山頂上	4♂採集	松井正人
1998年8月22日	石川県輪島市宝立山頂上付近	1♂採集	日吉芳朗

《参考文献》

- 石川むしの会・百万石蝶談会（1998）ツマグロヒョウモン．石川県の昆虫(石川県)：357-358.
 百万石蝶談会編集部（1994）短報28．翔（111）：9.



《ひよしよしろう・ひよしながこ 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

高洲山でツマグロヒョウモン発見できず

松井正人

ツマグロヒョウモンは、見晴らしの良い山や丘の頂上に集まる習性があり、それが発生地ではなく飛来地ならば、更に海の見えるとといった条件が付け加えられる（松井正人, 1990）。金沢市倉ヶ岳や押水町宝達山は、どちらも海の見える見晴らしの良い山であり、ツマグロヒョウモンは何度となく観察されている。倉ヶ岳や宝達山以外にも、県内には海の見える見晴らしの良い山があり、輪島市高洲山もツマグロヒョウモンが観察されているひとつである。

奥能登最高峰の高洲山は標高567m、能登では宝達山に次いで高く、晴れた日には遠く七つ島や舳倉島が展望できる。頂上まで車で上れるため、ツマグロヒョウモンの調査には向いていて、1994年には4♂を観察している（百万石蝶談会編集部, 1994）。

1998年は、県内でツマグロヒョウモンの観察が相次ぎ、8月下旬にはこれまで記録が無かった場所からも観察され、観察数も30頭近くになっていたが、金沢周辺の記録ばかりだった。そこで、奥能登高洲山での観察を計画し、9月3日と同12日の2度、調査に出かけたが、残念ながら2度とも観察できなかった。

1998年9月3日 石川県輪島市高洲山頂上付近 晴 観察できず
1998年9月12日 石川県輪島市高洲山頂上付近 晴 観察できず

この時期、口能登の宝達山では以下のように観察されていたが、奥能登までは飛来していなかったのだろうか。

1998年9月3日 石川県羽咋郡押水町宝達山頂上付近 1♂ 藤井 恒
1998年9月13日 石川県羽咋郡押水町宝達山頂上付近 1♂目撃 松井正人

最後に、ツマグロヒョウモンの記録をご教示いただき、快く発表に応じられた、藤井恒氏にお礼申し上げます。

《 参考文献 》

松井正人（1990）ツマグロヒョウモンの集まる山．翔（86）：3．
百万石蝶談会編集部（1994）短報 28．翔（111）：9．

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

ツマグロヒョウモンの蛹化植物について

嵯峨井淳郎

笹川忠志氏により発見された、金沢市額谷のツマグロヒョウモンポイントにおいて、ツマグロヒョウモンの卵、幼虫、蛹を探したところ8個の蛹と2頭の終令幼虫を採集確認した。

現地は、竹林もしくは杉林に囲まれた比較的明るい梅畑で、人間の膝丈ぐらいの下草が刈り込まれずに放置してあり、この下草から蛹、幼虫を採集確認した。下草の中にはたくさんのお花畑があり、オオタチツボスミレ（野田延孝氏同定）を摂食中の幼虫を観察した。

1998年9月30日、石川県金沢市額谷で確認した蛹化植物は以下の5種であった。

エノコログサの茎	2 蛹	イヌタデの茎	2 蛹	ツユクサの茎	2 蛹
チガヤの茎	1 蛹	オオバコの花茎	1 蛹		

これらの観察状況から、ツマグロヒョウモンの蛹化植物は安定した強度さえあれば何でもよいと思われるが、現地に一番多く自生するヌスビトハギ、ミゾハギには、全く蛹化を確認できなかった。

額谷の現地における観察の際に同行され、植物の同定に協力願った野田延孝そして松井正人の両氏に深く感謝申し上げたい。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

ツマグロヒョウモンの一吸蜜植物について

嵯峨井淳郎

笹川忠志氏により発見された、金沢市大額のツマグロヒョウモン発生地の上流部を上り詰めた地点に休耕畑が残されているが、その放置された畑跡に多数のミゾハギが密生し、ちょっとしたお花畑の様相を呈している。

そのミゾハギに、ツマグロヒョウモン他数種の秋型蝶が吸蜜しているのを目撃したので報告する。観察日は晴で、当日の最高気温は24℃（NHK発表・加賀地方）と汗ばむような陽気の日曜日であった。

1998年10月11日午前10時頃、石川県金沢市大額のミゾハギ花上で目撃した蝶

ツマグロヒョウモン	1 ♂ 8 ♀	（雌は全て汚損・破損した個体）	
ヒメアカタテハ	4 ♂	ベニシジミ	4 ♂ 2 ♀
アカタテハ	1 ♂ 1 ♀	ウラナミシジミ	2 ♂
キタテハ	4 ♂ 1 ♀	ヤマトシジミ	4 ♂
アオスジアゲハ	1 ♂ 1 ♀	オオチャバネセセリ	4 頭

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

石川県各地でツマグロヒョウモンの幼虫を調査

松井正人

ツマグロヒョウモンは、石川県では少ない蝶で、幼生期の観察記録は全く無かった。羽化後間もないような個体も採集されていたが、幼生期の記録が無いと、県内での発生は予想されていたにすぎない。

1998年は、多数の本種が各地で観察され、9月末から各地でおびただしい数の成虫が観察されるに至り、これを期に、多数の成虫が観察されている場所において幼虫調査を行ったので報告する。

◆金沢市額谷

今回の幼虫調査の発端となった場所で、発生地発見の経過は笹川忠志氏の報告に詳しい。ここで最初に蛹を発見したのは嵯峨井淳郎氏で、氏からの連絡で現地を訪れた。現地は、平野から山へ少し入った谷間で、大きなスギの木に囲まれたウメ畑。広さは10m×20m程で、背の高いスギ林の中にぽっかりと空いた空間だった。膝丈位の草が生えていて、その中にはオオタチツボスミレがびっしりとあり、葉が食べられ茎だけが目立つものもあった。この日は、中齢幼虫1頭、前蛹になりかけの幼虫1頭、蛹数個、羽化殻を発見した。天気の良い日に再び訪れると、多数の成虫とともに蛹や中齢幼虫が観察でき、オオタチツボスミレを摂食する幼虫も観察した。その他、羽化殻、脱皮殻、腐った蛹も観察し、前回発見した前蛹になりかけの幼虫が死んでいるのを確認した。

1998年9月30日 石川県金沢市額谷 1幼1前蛹数蛹観察 嵯峨井淳郎、松井正人、野田延孝

1998年10月3日 石川県金沢市額谷 数幼多数蛹観察 嵯峨井淳郎、松井正人、(オオタチツボスミレ) 久慈一英、北川章夫

◆加賀市塩屋海岸

嵯峨井淳郎氏、久慈一英氏との調査により発見した場所で、海岸林の海側にある草地。風が強く、ツマグロヒョウモンは風があまりあたらぬ窪地に多く見られた。他の海浜植物に交ざって、アナマスミレと大きな株のイソスミレがたくさんあり、10月3日にアナマスミレから、脱皮殻、初齢幼虫1頭、2齢幼虫2頭と1卵を観察し、10月11日には、イソスミレから、脱皮殻、3齢幼虫1頭と2卵を観察した。ここでは2種類のスミレを食草としていたが、アナマスミレの幼虫は簡単に観察できたのに比べ、イソスミレからはなかなか観察できなかった。

1998年10月3日 石川県加賀市塩屋海岸 1卵3幼採集(アナマスミレ) 松井正人

1998年10月11日 石川県加賀市塩屋海岸 1幼採集2卵目撃(イソスミレ) 松井正人

◆小松市大倉岳スキー場

スキー場の初級者用ゲレンデに作られたコスモス畑で、矢田新平氏によって発見された場所である（矢田新平, 1998）。10月11日にマーキングによって個体数を調べたところ、9時半から11時半の2時間で35♂5♀を観察したが、まだまだいるようだった。背の高いコスモス畑には、膝丈位の草が生え、その中にはスマレがあった。12時頃、少し飛んでは止まるツマグロヒョウモンの♀を発見したので、観察していると、4度目に膝丈位の草に止まった時、羽をすぼめて落ちるように叢の中へ入って行った。歩いて地表近くまでたどり着くと産卵を始め、歩きながら1卵ずつあちこちに産卵した。近くにオオタチツボスマレがあるが、産卵場所はスマレ以外の場所だった。あちこちに18卵を産んだところで、歩いて羽が広げられる高さまで上がり飛び立った。ここではスマレから、初齢幼虫1頭、2齢幼虫1頭と1卵を観察したが、このスマレが小さかったため、種名については栽培の結果を待つて報告する。

1998年10月11日 石川県小松市大倉岳スキー場 2 幼採集19卵目撃 松井正人

◆輪島市気勝山

最近植栽されたスギの造林地で、日吉御夫妻により発見された（日吉芳朗・日吉南賀子, 1998）。マツクイムシに食害されたと思われるマツ林をスギの造林地にしたらしく、大きなマツがポツポツと残されている。植えたばかりの小さなスギの木の成長を助けるため、草刈りが行われているので歩きやすく、各種のスマレも草に埋もれずむき出しになっていた。11月8日と15日の両日に幼虫を捜し回ったが、葉が食べられ茎だけとなったタチツボスマレとオオタチツボスマレを観察したに止まり、幼虫は発見できなかった。成虫は、カガノアザミやヤクシソウで吸蜜し、8日の12時半には交尾個体を観察し、これを含め6♂4♀を観察した。15日は風が強く肌寒い日で、気温は17度までしか上がらなかったが、3♂1♀を観察した。

1998年11月8日 石川県輪島市気勝山 2 ♀採集6♂2♀目撃 松井正人

1998年11月15日 石川県輪島市気勝山 3♂1♀目撃 松井正人

今回の調査では、多くの人の世話になった。情報をいただいた笹川忠志氏、矢田新平氏、共に調査していただいた北川章夫氏、久慈一英氏、情報をいただき共に調査していただいた嵯峨井淳郎氏、日吉芳朗・日吉南賀子御夫妻、共に調査していただき植物の同定をしていただいた野田延孝氏、これらの人達がいなければ今回の調査はできなかったと思われる。ここに記して厚くお礼申し上げる。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

ジョロウグモのネットにかかったツマグロヒョウモンの観察例

嵯峨井淳郎

金沢市額谷のツマグロヒョウモン発生地におけるジョロウグモのネットにかかったツマグロヒョウモンの観察例を紹介する。

秋色が濃くなるこの時季、いたるところに蜘蛛の巣が張りめぐらされていて観察・採集を行なう人間にとってうっとうしいことこの上ないが、蜘蛛達にも生活がかかっている。現地での調査の度にこれらの蜘蛛の巣を破っても破っても、又すぐ張りめぐらす精神力の強さ、根気強さ、感心するばかりである。

◆1998年9月26日 石川県金沢市額谷 ネットにかかった4♂を確認

数日来的のものが、ジョロウグモの巣に引っかかっているのを確認。ほとんどが胴の無いものであったが、比較的新鮮な1♂を採集し標本化した。

◆1998年9月27日 石川県金沢市額谷 ネットにかかった1♂を確認

羽化直後の羽がまだ乾ききっていないような♂を観察中に、処女飛行に翔びあがった瞬間、ジョロウグモの巣にかかってしまい、「あっ」というまに嘔み付かれて動かなくなった。新鮮な個体だったので、採集し標本化した。

◆1998年10月3日 石川県金沢市額谷 ネットにかかった1♂1♀交尾中のペアを確認

交尾中のペアを北川章夫氏（金沢大学工学部）が写真撮影していたが、人の気配に驚いて交尾のまま♀が飛び上がり、交尾ペアごとジョロウグモの巣にかかってしまった。

この観察事例からでも解るように金沢市額谷で、いかに沢山のツマグロヒョウモン成虫が発生しているかが、うかがい知れるであろう。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

青色のハーブに飛来したツマグロヒョウモン

嵯峨井淳郎

ジョロウグモ調査から帰り玄関に向かうと、鉢植えのハーブ（青色）で吸蜜中のツマグロヒョウモン1♀。ただただ焦ってしまって、ようやく降ったネットは見事に空振り。

1998年9月27日 石川県金沢市額谷 1♀目撃 嵯峨井淳郎

ツマグロヒョウモン流紋異常型オスを採集

嵯峨井淳郎

加賀市塩屋海岸で、ツマグロヒョウモンの前後翅共に表面黒紋が流れた異状型を採集したので報告する。筆者自身は異状型にはあまり関心が無く、巷のはやりと思われる強制的に行った異種間交雑等、愚の骨頂と考えるが、今回の自分が採集した本種は『自然界の悪戯』として受け止め、この暑い夏のせいで、生まれ出でた流紋型だと勝手に考えての報告である。

1998年10月3日 石川県加賀市塩屋海岸 7♂2♀採集 嵯峨井淳郎

9頭採集したうちの1♂が表面黒斑の流紋異常型であった。この日、松井正人、久慈一英の両氏に同行してのツマグロヒョウモン調査行であったが、現地における各氏のツマグロヒョウモン調査結果は、以下のとおりである。

1998年10月3日 石川県加賀市塩屋海岸 4♂3♀採集 久慈一英

1998年10月3日 石川県加賀市塩屋海岸 1♀3幼1卵採集 松井正人

当日、現地への同行を快諾された松井正人、久慈一英両氏に深謝する。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

1998年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
1998年度会費	82,000	会誌作成費	69,300
当該年度以外会費	14,000	例会費	18,000
会誌売上金	15,320	博物館を作る会費	3,000
郵送負担金	18,000	郵送費	29,260
寄付金	416	消耗品費	8,195
前年度繰越金	32,713	次年度繰越金	34,694
計	162,449	計	162,449

庭のランタナに飛来したツマグロヒョウモン

奥 素八子

ツマグロヒョウモンは、1996年6月に初めて遭遇してしまい一度も見ていなかったのですが、この秋、小松市に転居して久しぶりに見ることができました。

ここ小松市八里台は、辰口町と寺井町に隣接し、自然がまだ適当に残っているせいか、蝶がたくさん見られます。ざっと気が付いただけでもルリタテハ、アカタテハ、イチモンジチョウ、サカハチチョウ、カラスアゲハ、モンキアゲハ、ジャノメチョウ、キチョウ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、など。あくまでも素人の目で、専門的な見方はできませんが、ただ美しく飛び交う蝶に魅了されています。

ツマグロヒョウモンに出会ったのは、10月6日のことです。ガーデニングの真似事をしていた時、ランタナの花に見覚えのある蝶が止まっているのに気が付きました。はじめはアカタテハだと思い無視していたのですが、アカタテハにしてはちょっと違うような感じ、そっと近づいて見たところ、ツマグロヒョウモンだったのです。驚きと感激で興奮し、大急ぎでカメラに100mmマクロレンズをセットしてシャッターを切りました。なにしろ慌てて撮ったため、不出来な写真ばかりになりました。

1998年10月6日 石川県小松市八里台 1♀目撃 奥 素八子

《おく すやこ 〒923-0056 小松市八里台12-3》

石川『ツマグロヒョウモン』騒動・総括記

チョウキチホマレ

時は1998年9月～10月。石川県各地の各種スミレの自生地は、このような時季にしては変なおじさんが網持参でウロウロ、ウロウロ・・・地主が怪訝な顔つきでじっと睨みつけており、「何か事件でも起こさなければいいが」とばかりに、不審の眼付きで見られた『百万石蝶屋』達。そうです、その小父さん、あんたのことです。

蝶談会の数人のメンバーがああ妖しき色彩の『ツマグロヒョウモン』にあおだかされた結果、出るは、出るは、ツマグロヒョウモンに関する新知見がわんさと出ました。火付け役は『MKHR』氏。あおだかし役は『MTI』氏。それにのったのは、加賀勢、金沢勢、富山勢、総勢10人余。乗り遅れまいと必死の『チョウキチ』小父さん。

一部の蝶談会会員の間では、E-mail が飛び交い、

「倉ヶ岳で今年も採れました」に始まり、
「以前から採れている宝達山で今年も採れました」 「医王山でも採れた」
「辰口町の鍋谷で雌を見た」 「津幡町の三国山キャンプ場で採れた」
「倉ヶ岳では三角点のある山頂が一番、11時前後の晴れた日が最高です」
「海に近い小高い丘が絶好だ」 「倉ヶ岳のパラボラ周辺もいいらしい」
「森本の松根城址で確認してきました」 「小松でもいっぱい採れたそうだ」
「松田先生の実家の庭に雌が来たらしい」
「石川は並種らしい」 「富山でも採れだしたらしい」
「一里野音楽フェスタの会場周辺で雌を確認した」
「全国的にも今年によく確認されているみたいだぜ」
「NTTの横根無線中継所のパラボラでも確認したよ」
「金沢の天池坂でも採れたらしい」 「倶利伽羅峠でも見つかったらしいよ」
「大倉岳でも多産しているようだ」 「自宅の庭に雌が飛んできた」
「小松市岩上とか波佐羅でも確認されたようだ」
「加賀市の塩屋海岸で沢山の成虫と幼虫を確認してきました」
「大倉岳でアサギマダラみたいにマーキングしてきました」・・・etc

なかでも、一番チョウキチホマレが驚いたのが、『SSGW』氏の採集情報による、金沢市大額、額谷、高尾南の採集情報でありました。そこは倉ヶ岳の下方に位置し、連続的に続く新興住宅街の外れ、しかも比較的人の手の入ったかつての開墾地でした。

石川県における『確実な発生地を確認』した場所です。ほんの小さな放置された梅畑2つに、おびただしい数のツマグロヒョウモン成虫。草叢を見つめている目前で、次々に羽化するもの、じっくり探すと蛹が、前蛹が、終令幼虫が、中令幼虫が、弱令幼虫が・・・1週間毎の土、日に日参しても必ずや確認される新鮮個体成虫。果たして、どれだけの成虫発生をみたのでしょうか？

額谷における発生地については、明年の課題として、毎年発生しているのか、たまたま今年だけなのか大変興味のあるところです。現地は金沢市とはいっても比較的降雪の多い地域。幼虫越冬が可能なのか？、蛹越冬が可能なのか？、卵越冬なのか？ はたまた、越冬出来ずに全く発生「ゼロ」なのか？ とにかく明年何時頃に再確認されるのか・・・が『鍵』です。

1998年だけが『特別当り年』だったのか、いやいやもっと以前から土着していた『並種』なのか答えが出そうです。会員の皆様1999年も懲りずにツマグロ詣しましょう。

1998年石川県のツマグロヒョウモン記録

(採集、目撃の記述の無いものは採集を示す)

6月28日	金沢市湯涌温泉	1 ♀	笹川忠志
7月 4日	金沢市奥医王山	1 ♂	笹川忠志
7月 5日	小松市大倉岳	1 ♂目撃	矢田新平
7月26日	石川郡河内村内尾	1 ♂目撃	嵯峨井淳郎
8月10日	金沢市倉ヶ岳山頂	2 ♂	牧原悟郎
8月10日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	1 ♂目撃	牧原悟郎
8月14日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	2 ♂ 1 ♀	嵯峨井淳郎
8月21日	金沢市倉ヶ岳山頂	2 ♂	牧原悟郎
8月21日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	4 ♂	牧原悟郎
8月22日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	1 ♂	嵯峨井淳郎
8月22日	輪島市宝立山	1 ♂	日吉芳朗
8月23日	金沢市松根城址	3 ♂目撃	松井正人
8月23日	河北郡津幡町三国山	2 ♂目撃	松井正人
8月23日	河北郡津幡町南横根	3 ♂目撃	松井正人
8月23日	石川郡尾口村一里野	1 ♀目撃	松田俊郎
8月29日	金沢市医王山ｽﾎﾟｰﾂﾝﾀｰ	1 ♂ 1 ♀目撃	久慈一英
9月 3日	金沢市倉ヶ岳山頂	1 ♂	牧原悟郎
9月 3日	羽咋郡押水町宝達山頂上	1 ♂	藤井 恒
9月 5日	金沢市倉ヶ岳山頂	1 ♂	久慈一英
9月 5日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	1 ♂	久慈一英
9月 5日	石川郡鶴来町獅子吼高原	5 ♂	久慈一英
9月 6日	金沢市大桑	1 ♂目撃	笹川忠志
9月 6日	小松市岩上	1 ♂	矢田新平
9月 6日	小松市大倉岳駐車場	2 ♂	矢田新平
9月12日	金沢市新保天池坂	1 ♂目撃	生田省悟
9月12日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	1 ♂採集 4 ♂目撃	笹川忠志
9月13日	羽咋郡押水町宝達山頂上	1 ♂目撃	松井正人
9月13日	金沢市大額	5 ♂	笹川忠志
9月13日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	2 ♂目撃	笹川忠志
9月13日	金沢市キゴ山山頂	2 ♂	久慈一英
9月13日	河北郡津幡町俱利伽羅峠	1 ♂	久慈一英
9月14日	金沢市額谷	6 ♂ 1 ♀	笹川忠志
9月14日	金沢市倉ヶ岳山頂	3 ♂ 1 ♀目撃	牧原悟郎
9月14日	金沢市倉ヶ岳山頂	3 ♂ 1 ♀目撃	牧原悟郎
9月14日	石川郡鶴来町倉ヶ岳無線中継所	1 ♂採集 1 ♂目撃	笹川忠志
9月15日	小松市波佐羅	1 ♂	松井正人
9月20日	羽咋郡押水町宝達山	3 ♂ 1 ♀目撃	松井正人
9月20日	金沢市額新	5 ♂ 1 ♀採集 1 ♂目撃	笹川忠志
9月20日	金沢市倉ヶ岳山頂	8 ♂	嵯峨井淳郎
9月20日	小松市尾小屋	2 ♂採集 2 ♂目撃	矢田新平
9月20日	小松市二ツ屋	1 ♂採集 2 ♂目撃	矢田新平

9月20日	小松市岩上	2♂目撃	矢田新平
9月20日	能美郡辰口町仏大寺	9♂1♀5♂目撃	矢田新平
9月20日	小松市波佐羅	4♂採集4♂目撃	矢田新平
9月23日	金沢市額谷	2♂1♀採集2♂目撃	嵯峨井淳郎
9月27日	金沢市額谷	30数頭目撃	嵯峨井淳郎
9月30日	金沢市額谷	8蛹採集成虫多数幼虫目撃	嵯峨井淳郎・他
10月 3日	加賀市塩屋海岸	4♂3♀	久慈一英
10月 3日	加賀市塩屋海岸	7♂2♀	嵯峨井淳郎
10月 3日	加賀市塩屋海岸	1♀3幼1卵	松井正人
10月 3日	金沢市額谷	成虫多数蛹採集幼虫目撃	嵯峨井淳郎・他
10月 4日	金沢市大額	2♂2♀	嵯峨井淳郎
10月 4日	金沢市小原	2♂目撃	生田省悟
10月 4日	金沢市鈴見台	1♀	久慈一英
10月 4日	金沢市額谷	♂♀多数目撃	嵯峨井淳郎
10月 4日	金沢市額谷	3♂3♀採集2♂目撃	笹川忠志
10月 4日	小松市大倉岳スキー場	17♂12♀採集15♂4♀目撃	矢田新平
10月 4日	能美郡辰口町灯台笹	1♂1♀目撃	松田俊郎
10月 4日	能美郡辰口町仏大寺	1♂	矢田新平
10月 4日	能美郡辰口町宮竹	1♂1♀目撃	松田俊郎
10月 4日	小松市波佐羅	1♂採集1♀目撃	矢田新平
10月 6日	小松市八里台	1♀目撃	奥素八子
10月 9日	金沢市額谷	2♂6♀	細沼 宏
10月10日	河北郡内灘町西荒屋海岸	1♂	嵯峨井淳郎
10月10日	金沢市小原	1♀	生田省悟
10月10日	金沢市額谷	1♂2♀3幼目撃	笹川忠志
10月10日	金沢市額谷	成虫幼虫蛹目撃	嵯峨井淳郎
10月10日	小松市草野	1♂	矢田新平
10月11日	羽咋郡押水町北川尻	1♂目撃	久慈一英
10月11日	加賀市塩屋海岸	1幼採集16♂3♀2卵目撃	松井正人
10月11日	金沢市大額	1♂8♀目撃	嵯峨井淳郎
10月11日	金沢市小原	1♀採集2♂目撃	生田省悟
10月11日	小松市大倉岳スキー場	2幼採集35♂5♀19卵目撃	松井正人
10月11日	輪島市気勝山	1♂採集1♂目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
10月23日	金沢市額谷	3蛹採集2♂1♀目撃	嵯峨井淳郎
10月24日	金沢市額谷	1♀採集5♂4♀目撃	嵯峨井淳郎
10月25日	金沢市大額	1♂6♀目撃	嵯峨井淳郎
11月 3日	輪島市気勝山	3♂5♀採集2♂2♀目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
11月 7日	石川郡鶴来町中島	1頭目撃	松田俊郎
11月 8日	輪島市気勝山	1♀採集2♂3♀目撃	日吉芳朗・日吉南賀子
11月 8日	輪島市気勝山	2♀採集6♂2♀目撃	松井正人
11月14日	輪島市気勝山	1♂	日吉南賀子
11月15日	輪島市気勝山	1♂1♀目撃	日吉芳朗・日吉芳弥
11月15日	輪島市気勝山	3♂1♀目撃	松井正人

福井県木の芽峠から奄美大島

北陸からアサギマダラの長距離移動記録が、またまた出た。日本海側の記録はほとんど無かったが、今年はこれで二例目。移動距離も約千キロと今年の最長距離となった。木の芽峠は、なんてったって久慈氏のお気に入りの場所なんだから。

アサギマダラの越冬実験

松井氏、秋に捕獲したアサギマダラから採卵し、キジヨランで越冬できるか実験している。たくさんの幼虫はかわいそうにバタバタと死んでいき、年末には蛹と前蛹と幼虫がほんの少し生き残っていた。

夏と冬には長期の旅行

バリ、ペナン、プーケットと毎年海外に出かける澤田氏。今年は夏にタイペイへ出かけているが、年末年始に再び渡航。とは言っても、今回は沖縄で、ネットは持っていいかなかった。

圭ちゃんのギフチョウ

坂原 圭ちゃんの年賀状を紹介しよう。きれいに描けているのにカラーで見せできないのがとっても残念。



虫の世界に正月は無い

富沢氏、年末年始は昆虫館で虫の糞掃除。元旦も普通出勤で、朝からコロコロ転がる糞を掃除し、餌を取り替えていたが、好きじゃないとできない仕事です。

どこへも行かずマウント作業

井村氏、今年の正月はマウント作業に明け暮れる。ハン

ミヨウ、タマムシ、クワガタと三つの箱を作って一杯にした。並んだ虫は約五百頭。

九州のマルコガタノゲンゴロウ

洞窟探検にゲンゴネットを持って現れる本県きつてのゲンゴ屋、西原君。この春は九州のゲンゴを狙っている。ブリカマの腐った匂いが気にならない人、一緒に行きませんか。

朽木を崩してオオゴキブリ

「冬の虫捜し」と題してNHKのテレビ取材を受けた富沢氏、当初はフユシヤク採集を考えていたが、雪が積もっては全くお手上げ。そこで思いついたのが、昨年から取り組んでいるオオゴキブリ採集。一年の経験がものをいい、一崩しでオオゴキが出現。

自然人の春号は昆虫特集

次号の自然人は昆虫特集になるらしく、各人の所に原稿依頼が舞い込んだ。来季に備え今季の整理が忙しい中、各人受け持ちパートに大わらわ。

「こんな筈じゃ」の山岸院長

福井に開業した山岸医院、土曜の半日を水曜へずらし、週半ばの採集を目論んでいた。ところが、今度は連休が取れなくなり遠出ができなくなった。

例会の記録

十二月三日(木)城南管工二階にて八時から、見せびらかし標本大会。

「これが金沢のクロシジミ」と未だに一桁しか採れていないクロシジミ三頭を吉村氏が持ってきた。一頭は日尾産で二頭は菊水産。「沖縄の成果」は細沼氏で、マルバネルリやシロウラナミが入っていた。

その他の話題では、みんなで捜そう菊水のクロシジミ、奥能登のハヤシミドリ、医王山のヒサマツミドリ、ツマガロヒの越冬態は、等々。

参加は、笹川、久慈、松井、中西、吉村、細沼、井村、山岸の八人。

【表紙デザイン：小幡英典】

會員の動き・しゃべの動き

ナガサキアゲハが飛んできた
ついに迷蝶の大御所がやってきた。ワシタカの調査中に鳥屋さんが目撃したもので、県内では四十七年ぶり二頭目。福井でも九十三年からポツポツと記録され、そろそろ石川にもやってきた。

細沼氏、西表のジャングルへ
ヒメウラボシを狙って八重山行きを強行したが、時既に遅く、縦横に切り開かれた道を眺めて帰ってきた。それでも、シロウラナミ、マルバネ等おみやげは採れたようだ。

まだまだ飛んでる
ツマガロヒヨウモン
寒波が来て一度白くなったのに、まだツマガロが飛んでいる。十一月二十六日や二十八日に羽化したの雄や雌が

飛んでいたとか。これ、富山県の話なんだけど、石川は塩屋海岸辺りで飛んでいたかも。

ウスイロコノマが大量羽化
金沢各地と松任でウスイロコノマが羽化している。この秋に飛来した母蝶の子孫で、仕掛人は松井氏。十月に富来町で採集した雌から採卵したもので、会員宅で次々と羽化している。

ゴヘイニクバエって知ってる？
ゴヘイは銭屋五兵衛の五兵衛で、かつては金石海岸にたくさんいたらしい。今は国のレッドデータブックで危急種扱いになっていて、徳本氏が捜している。ところが、標本も無ければ図鑑も無い。有るのは細かな記載の文献だけで、顕微鏡下の話はフィール

ドでは間に合わない。イソメマトイやカエルキンバエも同様で、見たことも無い虫をどうやって捜すのだろう。

メンバーも新たに洞窟探検
ヒゲナガホラヒラタとお友達になる会主催の洞窟探検が檜見と瀬領で行われた。参加は、井村、徳本、富沢、松井、西原の五氏。手に手に得物を抱えた各氏は、コウモリからヤスデ、ワラジムシと手当たり次第に採集。メクラゴミやホラヒラタもしつかり採集し、満足のいく一日だった。

晩秋の吉次山で燈火採集
松井、澤田の二氏、「真夏の医王山、蛾の乱舞」以来すっかり虜になった野田氏を誘い、晩秋のフユシヤク採集に挑戦。陽が落ち、寒さが身にしみる頃、現れた蛾は幕には止まらず、どこかへ飛び去って行く。ネットを持ち幕の前で飛んで来るのを次々とキャッチ。夏の時とは違い、正に昆虫採集だった。

翔

NO. 136

1999年2月1日発行

百万石蝶談会

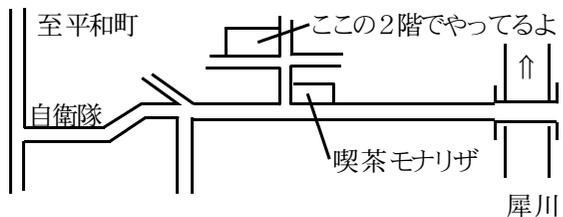
金沢市大場町東871-15 松井方

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL 参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (136号)

松井正人：1998年石川県のツマグロヒョウモン概要	1
笹川忠志：1998年金沢近郊で一時発生したツマグロヒョウモン類末記	7
嵯峨井淳郎・牧原悟郎：倉ヶ岳のツマグロヒョウモン・その後	10
久慈一英：石川県にツマグロヒョウモンがいっぱい	11
矢田新平：小松市のツマグロヒョウモンパラダイス	13
日吉芳朗・日吉南賀子：輪島市気勝山のツマグロヒョウモン	15
松井正人：高洲山でツマグロヒョウモン発見できず	17
嵯峨井淳郎：ツマグロヒョウモンの蛹化植物について	18
嵯峨井淳郎：ツマグロヒョウモンの一吸蜜植物について	18
松井正人：石川県各地でツマグロヒョウモンの幼虫を調査	19
嵯峨井淳郎：ジョロウグモのネットにかかった ツマグロヒョウモンの観察例	21
嵯峨井淳郎：青色のハーブに飛来したツマグロヒョウモン	21
嵯峨井淳郎：ツマグロヒョウモン流紋異常型オスを採集	22
奥 素八子：庭のランタナに飛来したツマグロヒョウモン	23
チョウキチホマレ：石川『ツマグロヒョウモン』騒動・総括記	23
編集部：1998年石川県のツマグロヒョウモン記録	25
編集部：会員の動き・しゃばの動き	28